

一般社団法人青森県言語聴覚士会

青森県言語聴覚士会 一般社団法人設立

一般社団法人青森県言語聴覚士会 副会長 山田 大介

青森県言語聴覚士会は2002年会員数39名の職能団体として設立され、16年の活動を経て、2018年6月をもちまして「一般社団法人青森県言語聴覚士会」へ移行することができました。法人化・式典・記念講演など、多くの方々にお力添えをいただきまして、平成最後に新たな船出を迎えることができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

当会でも法人化の話題はすいぶん前から議題が上がっていましたが、なかなか一步を踏み出すに至っておりませんでした。そもそも当時は法人格の持つ意味も必要性もそれほど感じる状況になかったのだと思います。

しかし転機となったのは、ここ数年の地域包括ケアシステムの構築推進やJRAT等の他士会合同事業でした。事業を進めるにあたり行政機関や関連団体との連携が必要不可欠となり、職能団体として県士会の役割は大きく変わっていきました。しかし、これまでの任意団体では、公的な団体としては認められにくく、社会的な立場は決して強いものとはいえませんでした。今後、言語聴覚士が成長し、地域からのニーズに応え、貢献していくためには、社会的責任を負う法人格が持つ意味は大きいと考え、2017年から本格的に法人化へ向けて準備を取り進めました。特に事務局には司法書士とのやり取りや定款の作成などに、尽力してもらいました。



藤島先生の記念講演会の様子

また特別記念講演は浜松市リハビリテーション病院院長の藤島一郎先生をお招きして「嚥下リハビリテーションの変遷とこれから～私たちに求められること

～」と題し、ご講演いただきました。他職種の方々も大勢お見えになられ、当会としては過去最大規模の講演会となりました。一般的には式典後に祝賀会となるところですが、そこはお酒大好き短命県の青森です。待ちきれず前夜祭をしめやかに執り行いました。



待ちきれず前夜祭を開催!

言語聴覚士の求められる姿も変わりつつあり、業務は多様化しています。また県士会の社会に対する責任、地域に対する役割も、これまで以上に大きなものとなります。これからも会員の皆様と力を合わせ、地域の豊かなコミュニケーションを創造し、障害児者の住み良いまちづくりの一端を担いたいと考えております。今後とも、より一層のお力添えをよろしくお願いいたします。



理事・会員一同